

# 郷土博物館整備に係る提言

## 【資料編】

令和3年3月12日

座間市郷土資料館整備事業検討委員会



## 目次

資料 1	座間市郷土資料館整備事業検討委員会年譜	1 ページ
資料 2	旧歴史民俗資料館収蔵資料の保管状況	3 ページ
資料 3	市史資料（古文書）保管状況	11 ページ
資料 4	現有資料保管に要する面積の計算	13 ページ
資料 5	近隣市博物館整備事例	17 ページ
資料 6	展示物の候補となる資料例一覧	21 ページ
資料 7	座間市の文化財等に関する調査（主催イベント参加者用）	23 ページ
資料 8	提言「地域を生かす郷土博物館施設を目指して」（平成17年）	35 ページ



## 座間市郷土資料館整備事業検討委員会年譜

平成25年度	
10月11日(金)	委員委嘱式・会長・副会長互選、日程調整
1月10日(金)	市内の文化遺産等の活用とその活用の実際及び将来性他について
3月14日(金)	前回の内容に基づいて、郷土資料館の位置付けとそのシステム等について

平成26年度	
8月25日(月)	市内文化財案内板など文化遺産資料の所在の確認と活用の方向性について
1月27日(火)	アンケート調査の可能性について
3月18日(水)	前回の内容に基づいて、アンケート内容の検討他

平成27年度	
7月15日(水)	座間市郷土資料館整備事業について(アンケート案について)
10月20日(火)	座間市郷土資料館整備事業について(アンケート案について)
3月15日(火)	座間市郷土資料館整備事業について(アンケート案について)

平成28年度	
10月26日(水)	座間市郷土資料館整備事業について(アンケート案について)
3月3日(金)	「海を渡った麗しき工芸品展-金子コレクション@座間」の視察
3月17日(金)	座間市郷土資料館整備事業について(アンケート案について)

平成29年度	
8月24日(木)	座間市郷土資料館整備事業について(アンケート試行について)
11月17日(金)	他市公共施設の視察(大和市文化創造拠点シリウス)
3月15日(木)	座間市郷土資料館整備事業について(アンケート試行結果報告について)

平成30年度	
10月5日(金)	座間市郷土資料館整備事業について
12月21日(金)	座間市公共施設再整備計画について
3月25日(月)	郷土資料館整備事業検討委員会提案書(仮)について

令和元年度	
7月5日(金)	あつぎ郷土資料館他の視察
9月27日(金)	郷土資料館整備事業について(提案書骨子案の検討など)
3月26日(木)	郷土資料館整備にかかる提案書文案について外

令和2年度	
7月3日(金)	郷土資料館整備に係る提案書(案)(第1回分)について外
9月4日(金)	郷土資料館整備に係る提案書(案)(第2回分)について外
11月13日(金)	郷土資料館整備に係る提案書(案)(第3回分)について外
1月29日(金)	郷土資料館整備に係る提案書(案)(第4回分)について外
3月12日(金)	郷土博物館整備に係る提言の提出について

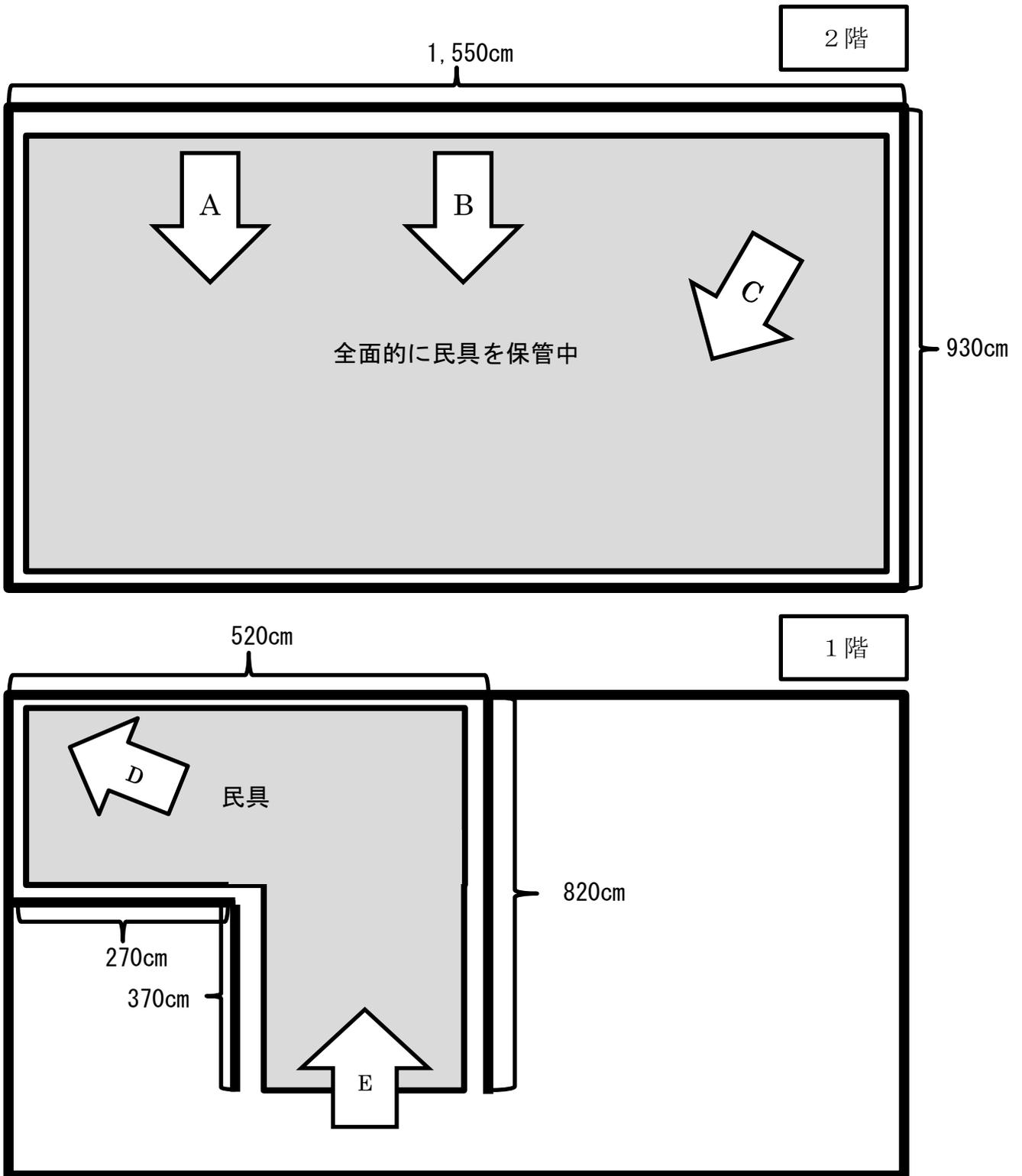


## 旧歴史民俗資料館収蔵資料の保管状況

	名称	所在地	所管課
(1)	分庁舎	入谷西二丁目5番12号	財産管理課
(2)	東中学校敷地内コンテナ	ひばりが丘5丁目57番1号	学校総務課
(3)	入谷プール管理人宿舎	入谷西五丁目43番1号	スポーツ課

(1) 分庁舎における保管状況

- 1階・2階ともに施錠され、出入り口は防犯対策がされている。また、1階は放置自転車返還事務所としても利用されており、勤務する職員のために空調が使われる場合がある。



- 天井高・・・1階・2階ともに240cm



A



B



C



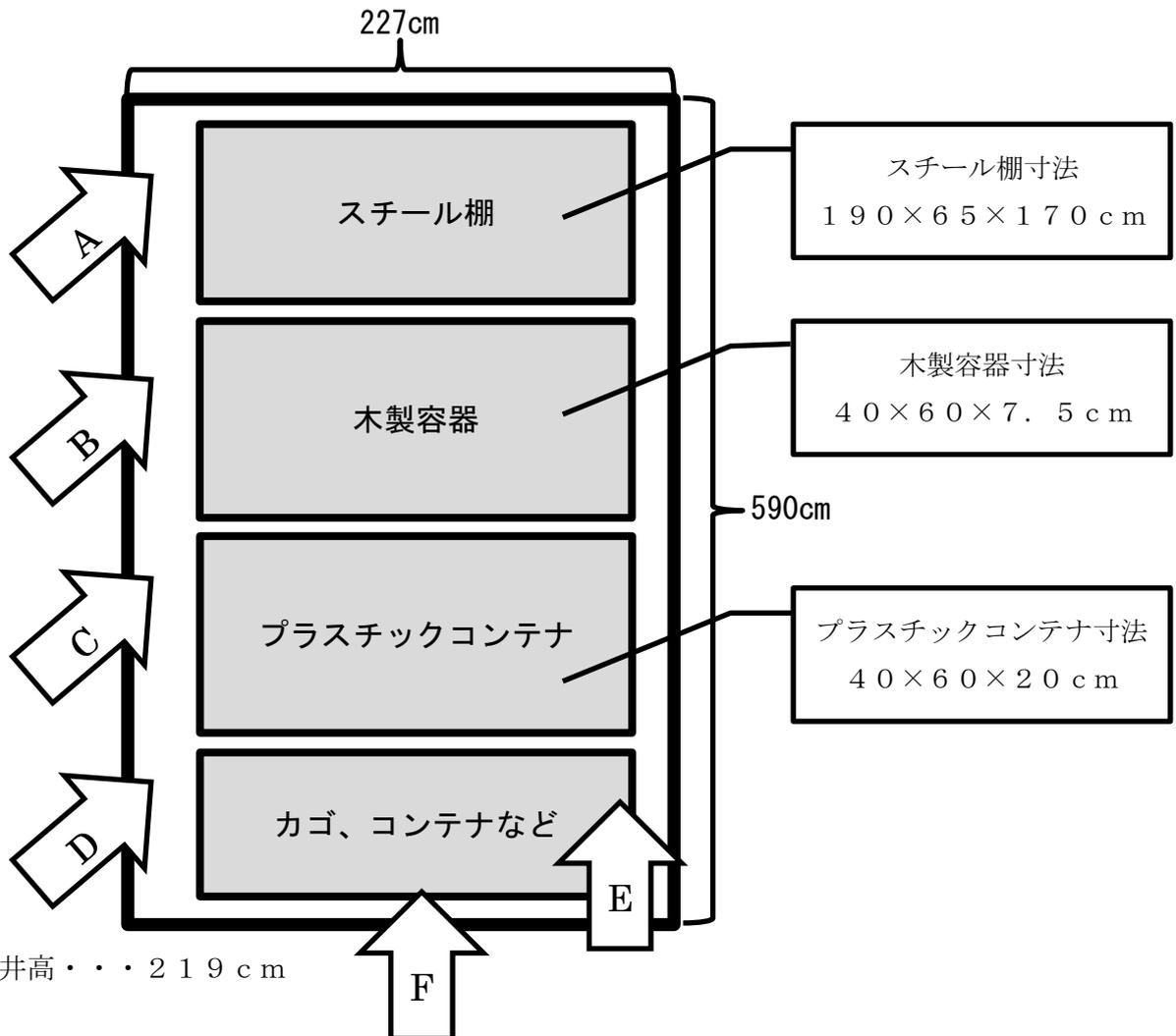
D



E

(2) 東中学校敷地内コンテナにおける保管状況

- 学校の校庭脇に置かれているコンテナ。
- 施錠・密封されているが、温度や湿度は管理されていない。
- 内部左側には、人が辛うじて通れる程度の、30cmほどの隙間がある。
- プラスチックコンテナ等の上には内容物不明の段ボール箱等が天井近くまで積み上げられている。また、最も手前には、遺物、遺物レプリカ等が様々な容器に入った状態で積み上げられている。これらはプラスチックコンテナに移し替えて棚に格納するものと想定する。



- 天井高・・・219cm
- スチール棚・・・1基 (190×65×170cm)
- 木製容器・・・240個
- プラスチックコンテナ・・・120個
- カゴ、コンテナなど・・・180×160×150cm  
コンテナ換算・・・96個 (3×4×8個)
- 段ボール箱等 (天井付近)・・・180×300×40cm  
コンテナ換算・・・48個 (3×8×2個)



A



B



C



D



E



F

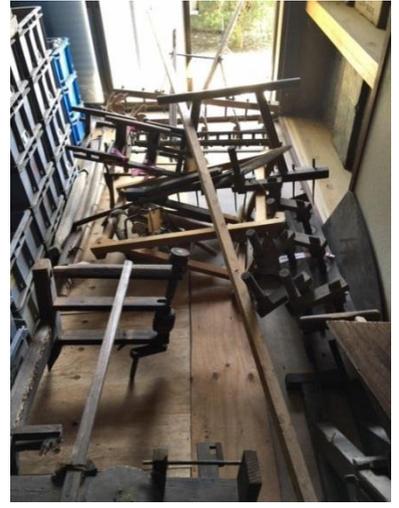




A



B



C



D



E

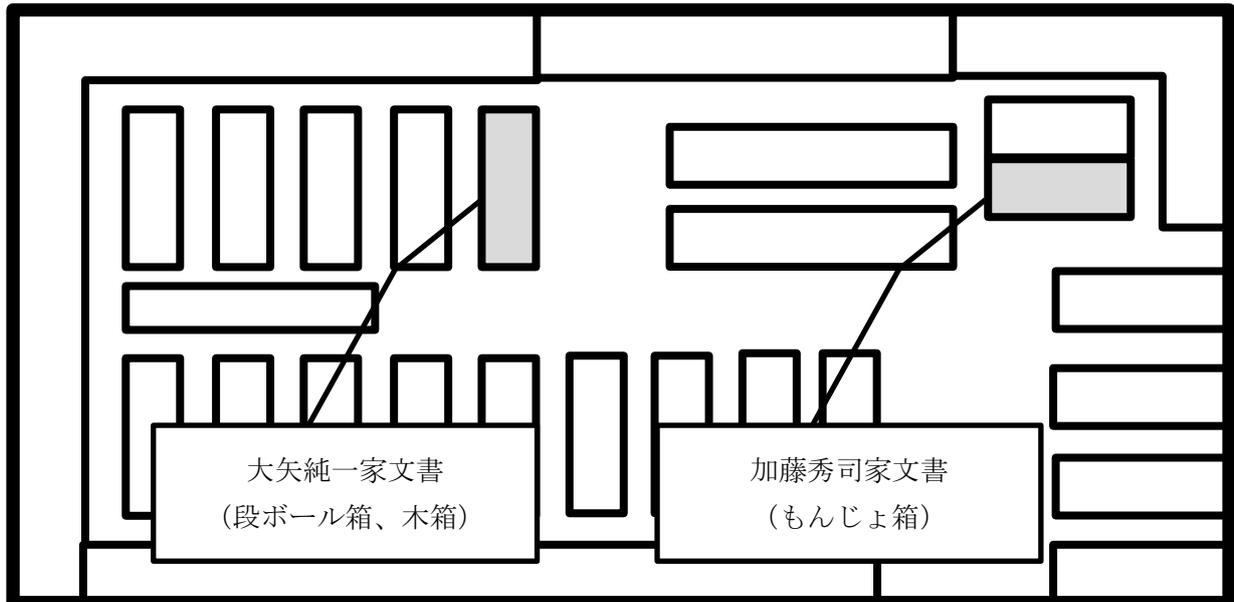


F



## 市史資料（古文書）保管状況

- 市史編さんのために収集された資料（中世から近現代までの古文書）は、複写したのち原本を所有者に返却していたため、大半が現在も民間所有である。
- 「座間市史資料所在目録（2～5集）」によれば、資料の数は22,366点（165家）。
- ただし、30年間以上にわたり追跡調査が行われておらず、現状は明らかではない。
- 「大矢純一家文書」「加藤秀司家文書」は例外的に市立図書館地下書庫に保管している。
- 市立図書館地下書庫は、温度約20～26℃、湿度約25～54%に管理されている。



- 大矢純一家文書（段ボール箱）・・・ 27×42×20・・・21個  
27×42×10・・・1個  
35×54×31・・・2個  
35×46×33・・・1個
- 大矢純一家文書（木箱）・・・ 30×40×20・・・1個
- 加藤秀司家文書（もんじょ箱）・・・ 39×52×26・・・11個
- 市史資料所在調査を進行すれば、現状では民間所有になっている資料を引き取ることが想定されるので、さらに保管面積が必要になるが、総量は想定不能である。



## 現有資料保管に要する面積の計算

### (1) 考古資料保管面積の計算

- 既存のプラスチックコンテナを、図1のスチール棚（128×65×225.5cm）に収納することを想定する。ただし、現在使用中のプラスチックコンテナは高さが20cmであり、図中のコンテナとは1個当たりの高さが異なるため、棚板1枚あたり3列×3段を収納するものとする。この場合、3列×3段×3段（棚板）となるため、スチール棚1基あたり27個のコンテナを収納する。
- 東中学校敷地内コンテナに保管されている木製コンテナは、高さが7.5cmであるため、棚板1枚あたり3列×9段を収納すると考える。  
この場合、3列×9段×3段（棚板）となるため、スチール棚1基あたり81個の木製コンテナを収納する。
- 入谷プール管理人宿舎に保管されている茶箱は、棚板1枚あたり1個を収納すると考える。  
この場合、スチール棚1基あたり3個の茶箱を収納する。
- 通路の幅は、コンテナを積み下ろす作業を想定し、120cmの幅を確保するものとする。
- 棚の占める面積と通路幅を鑑みて、図2に示す「モジュール」を1単位とする。
- 東中学校敷地内コンテナに設置されているスチール棚も通路幅を加算し、モジュールとして考える。

### ○コンテナ数

保管場所	プラスチックコンテナ	換算コンテナ数	木製コンテナ	茶箱
東中学校敷地内コンテナ	120個	96 + 48個	240個	
入谷プール管理人宿舎	217 + 102個			9個
合計	439個	144個	240個	9個

### ○コンテナを収容するスチール棚の数

- プラスチックコンテナ  
 $(439 + 144) \div 27 = 21.59 \div 22$ 基
- 木製コンテナ  
 $240 \div 81 = 2.96 \div 3$ 基
- 茶箱  
 $9 \div 3 = 3$ 基

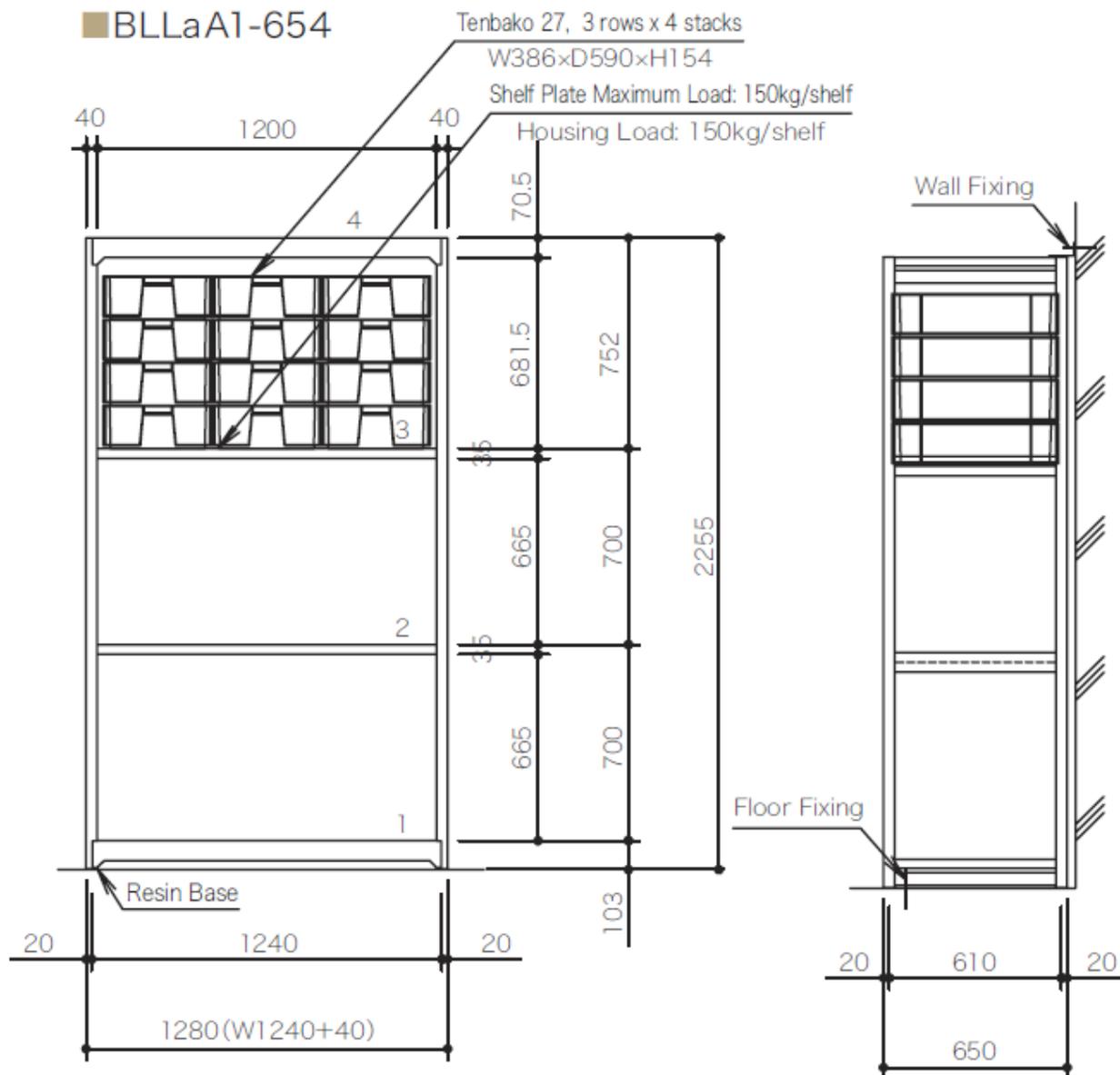
### ○東中学校敷地内コンテナ内スチール棚 モジュール面積

$$1.9\text{m} \times (0.6\text{m} + 0.65\text{m}) = 2.375\text{m}^2 (0.71\text{坪})$$

### ○スチール棚占有面積（通路含む）

- $(22 + 3 + 3) \times 1.6\text{m}^2 + 2.375\text{m}^2 = \underline{47.175\text{m}^2} (14.27\text{坪})$

図1 スチール棚寸法 (第一合成株式会社カタログ(英語版)より)



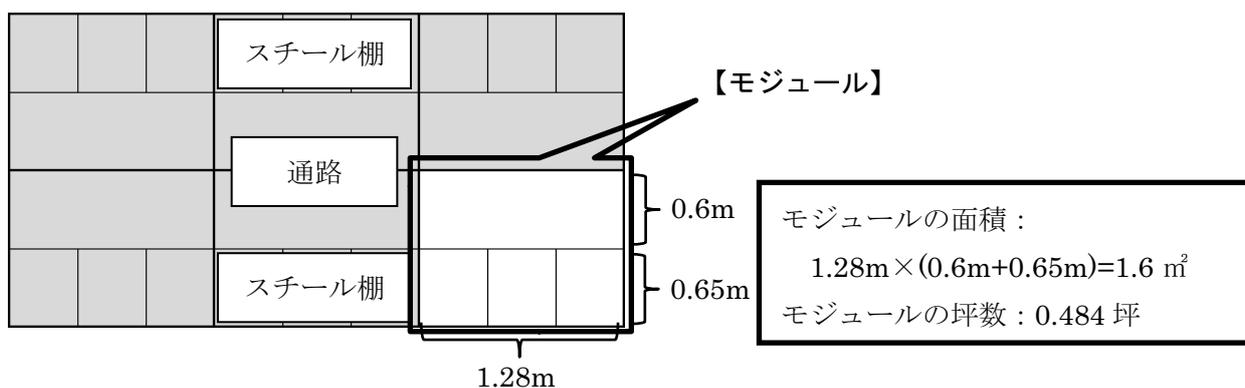
※Shelf Plate Maximum Load ... 棚板耐荷重:150kg/段

Housing Load ... 積載荷重:150kg/段

Wall Fixing ... 壁固定

Floor Fixing ... 床固定

図2 スチール棚設置イメージとモジュール図・面積



## (2) 民具保管面積の計算

- 民具は1個ごとの容積が大きく異なり、また数量も多いため、個別の容積を算出するのは実質的に不可能である。そこで、現在の各収納場所で占めている面積を合算する。

### ○民具保管面積

分庁舎1階・・・ $(5.2\text{m} \times 8.2\text{m}) - (2.7\text{m} \times 3.7\text{m}) = 32.65\text{m}^2$ ・・・①

分庁舎2階・・・ $15.5\text{m} \times 9.3\text{m} = 144.15\text{m}^2$ ・・・②

入谷プール管理人宿舎・・・

1.  $8\text{m} \times 1.1\text{m} = 8.8\text{m}^2$ ・・・(A)

2.  $8\text{m} \times 1.1\text{m} = 8.8\text{m}^2$ ・・・(B)

1.  $7\text{m} \times 1.4\text{m} = 9.8\text{m}^2$ ・・・(C)

1.  $6\text{m} \times 0.9\text{m} \times 3\text{段} = 16.2\text{m}^2$ ・・・(D)

(A) + (B) + (C) + (D) =  $43.6\text{m}^2$ ・・・③

① + ② + ③ =  $188.56\text{m}^2$  (57.04坪)

## (3) 市史資料(古文書)保管面積の計算

- 段ボール箱・木箱の寸法は不ぞろいだが、3列×3段で収納することができる。  
この場合、3列×3段×3段(棚板)となるため、スチール棚1基あたり27個の段ボール箱を収納する。
- もんじょ箱の寸法は $52 \times 39 \times 26\text{cm}$ であり、棚板1枚あたり3列×2段を収納することが出来る。  
この場合、3列×2段×3段(棚板)となるため、スチール棚1基あたり18個のもんじょ箱を収納する。

### ○箱の数

段ボール箱+木箱・・・26箱

もんじょ箱・・・11箱

### ○市史資料を収容するスチール棚の数

- 段ボール+木箱

$26 \div 27 = 0.96 \div 1$ 基

- もんじょ箱

$11 \div 18 = 0.61 \div 1$ 基

### ○スチール棚占有面積(通路含む)

- $2 \times 1.6\text{m}^2 = 3.2\text{m}^2$  (0.97坪)

## (4) コンテナ類、民具および古文書の保管面積の合計

$47.175\text{m}^2 + 188.56\text{m}^2 + 3.2\text{m}^2 = 238.935\text{m}^2$  (72.28坪)



## 近隣市博物館整備事例

## (1) 相模原市立博物館

設立経緯	<p>昭和53年12月、郷土懇話会や文化協会ほか8団体の連名で「博物館設置要望書」が市長に提出された。翌年、文化関係6団体からなる文化財研究協議会が結成され、ここで博物館設立について熱のこもった論議が行われた。</p> <p>こうした市民の積極的な行動と同時に、昭和55年、市総合計画に「博物館・美術館などの文化施設の検討」が盛り込まれ、昭和56年4月に社会教育課に博物館準備係が設置され、博物館設立の第一歩が踏み出された。設立の過程で幾つかの問題があったが、相模原市の公共施設として初めてプロポーザル方式で設計者を選定して平成5年に着工、平成7年11月20日（市制記念日）に開館した。</p>
敷地面積	9,999.48㎡
建築面積	5,081.03㎡
延床面積	9,510.24㎡
展示スペース	1,907㎡
自然・歴史展示室	1,170㎡
天文展示室	127㎡
特別展示室	487㎡
学習スペース	453㎡
実習実験室	90㎡
情報サービスコーナー	127㎡
大会議室	237㎡
プラネタリウム	648㎡
研究スペース	1,038㎡
市民研究室	294㎡
天体観測室	74㎡
整理作業室ほか	670㎡
収蔵スペース	1,570㎡
管理・共用スペース	3,894㎡
組織	
館長	
企画情報班	事務職員 5名
学芸班	考古1名、民俗1名、生物2名、地質1名、天文2名 事務職員 1名
市史編さん班	学習指導員 1名 市史編さん調査員（非常勤特別職） 1名 町史専門調査員（非常勤特別職） 1名
所蔵資料	
考古資料	7,999箱
歴史資料	104,805点
民俗資料	23,269点
地質資料	12,138点
動物資料	42,607点
植物資料	56,544点
天文資料	2,053点

(令和元年度相模原市立博物館年報より抜粋)

(2) あつぎ郷土博物館

設立経緯	<p>前身の「厚木市郷土資料館」は平成元年に新設された博物館準備係に始まり、平成3年に資料収集検討委員会、平成4年に展示委員会を発足して準備を重ね、平成10年に寿図書館を改修することで開館した。</p> <p>しかし、建物は建築後50年近くが経過しており、老朽化や収蔵スペースの不足が問題となったことから、移転が検討されるようになった。平成19年の「市民公園整備構想」のなかでは中央青年の家跡地が移転対象地区に位置付けられ、平成25年度策定の「中心市街地の公共施設再配置計画」では老朽化対応と機能向上のために早期に移転するべきとされた。平成26年度中にはパブリックコメントを実施し、以後審議会や説明会を開催し準備を重ねた。なお、説明会において従来の「資料館」という名称では施設の性質がイメージされにくく「博物館」という名称が望まれたことに加え、前身施設「郷土資料館」からの流れを受け継ぐかたちで、新施設の名称は「郷土博物館」となった。</p> <p>平成29年に着工、平成30年1月27日に開館した。</p>
敷地面積	10,025㎡
建築面積	1,133.06㎡
延床面積	1,590.10㎡
展示スペース	
基本展示室	304.15㎡
企画展示室	90.81㎡
化石展示室、展示収蔵室	32.29㎡
学習スペース	
体験学習室	130.70㎡
収蔵スペース	
収蔵庫	(人文、美術、自然、液浸庫)、倉庫 312.25㎡
事務室、管理室等	680.22㎡
組織	
館長	
事務職員	2名
学芸員	民俗1名、自然1名、歴史2名、国文1名
収蔵資料	
人文	27,021点
自然	152,909点
考古資料	展示中資料のみ

(3) 愛川町郷土資料館

設立経緯	<p>旧郷土資料館は、町立半原小学校旧校舎(木造、大正15年建造)を活用して昭和54年に開館、撚糸機具等の民具約500点を展示していたが、文化財保護に木造建築が適さないことや、収蔵庫が必要となったことから、新施設への取組みが始められた。</p> <p>平成2年に委員会を設置し基本構想を作成、平成4年には基本計画を策定、展示業者も決定し、平成5年には3,000㎡規模を目標とする基本設計が作られた。しかし、バブル経済崩壊や計画規模に対する批判があり計画は停滞、平成13年の町長交代を契機に「郷土博物館」として進行していた計画は「郷土資料館」へと規模が縮小された。平成15年に改めて郷土資料館設置のための委員会が設置され同17年に基本計画策定、以後建築・展示の設計を経て平成21年4月29日に開館した。当初は半原小学校敷地内に収蔵庫を増設する案もあったが、耐火性の問題があることと、県立公園内に郷土資料館が設置可能となったため新造された。なお、この際に面積は1,000㎡以内とされた。計画は再始動を経ているが、展示計画は初期の計画で練られた内容が活かされている。</p>
建築面積	1,011㎡
延床面積	1,205㎡
展示普及部門	
常設展示室	266㎡
企画展示室	48㎡
工作・研修会議室	47㎡
収蔵保管部門	
収蔵庫1(自然系)	246.45㎡(1層154.84㎡、2層91.61㎡)
収蔵庫2(人文系)	168.76㎡(1層111.04㎡、2層57.72㎡)
収蔵庫前室	23.85㎡
荷受・荷解室	50.17㎡
燻蒸兼用保管庫	13.28㎡
一時保管庫	13.28㎡
管理部門	
事務室、資料・研究室	55.00㎡
エントランスホール、廊下	151.40㎡
風除室	18.30㎡
便所	43.21㎡
ガスボンベ及び空調機置場	44.69㎡
倉庫	16.23㎡
組織	
館長	
事務職員	1名
学芸員	自然系(昆虫)1名、歴史(中世)2名
収蔵資料	
考古資料	143箱
歴史資料	3,601点
民俗資料	3,555点
地質資料	1,310点
動物資料	292点
植物資料	9,774点
美術品	99点



## 展示物の候補となる資料例一覧

	分類	名称	特徴
①	考古	翡翠の太珠	令和元年度下谷遺跡第3次調査にて発見された翡翠製装身具。国内では翡翠の原産地は新潟県糸魚川流域に限られるため、交易路の存在を示唆する貴重な資料である。また、装身具でありながら、墓所ではなく住居址から発見されたことも珍しい。
②	考古	尖頭器	栗原中丸遺跡で発見されたナイフ状の石器。全長16.5cm。非常に薄く形が整っており、実用ではなく象徴的な意味合いを持つものと考えられる。現在は神奈川県が管理しており、巡回展でもたびたび展示される程の貴重な資料である。市が保管施設を整備することにより移管の手続きが可能となる。
③	考古	刀子、鏃、トンボ玉等	梨の木坂横穴墓等の調査にて発見された副葬品。現在は市公民館民俗資料室で展示される等しているが、金属製品は劣化が進んでいる。
④	考古	鉄刀（2振）、金属円盤等	梵天山横穴墓の調査にて発見された。現在、市立図書館地下書庫で保管している。鉄刀は約90cmのもの約80cmのものがあり、状態は悪くないが検査保存処理は必要である。
⑤	歴史	北条藤菊丸棟札	市指定重要文化財。「藤菊丸」とは北条氏康の三男である北条氏照の幼名で、本資料はこの人物を研究する上で重要である。
⑥	歴史	栗原学校扁額	市指定重要文化財。幕末から明治期にかけて活躍した偉人、山岡鉄舟の筆による。座間教育史においても重要な資料である。
⑦	歴史	「雷電」部品	高座海軍工廠で生産されていた戦闘機「雷電」外板の部品。ただし、実装品ではなく工作見本であるとみられる。「雷電」の機体は、現在はアメリカのプレーンズ・オブ・フェイム航空博物館に一機が保存されるのみで、その部品も大変珍しい。工作見本であることから、優れて模範的な技術で製作されており、当時の機械技術がわかる貴重な産業遺物であるともいえる。
⑧	民俗	養蚕関係民具	養蚕、製糸、蚕種製造等に関する道具が、市公民館民俗資料室に展示中のほか、多数保管されている。
⑨	民俗	復元養蚕家屋	現存する図面資料を元に、養蚕家屋の特徴的な構造を復元し、展示することが出来る。
⑩	民俗	入谷歌舞伎	幾度かの活動停止と再開を経て、現在も活動中。公演の様子の上映や衣装の展示が可能。
⑪	民俗	座間の大凧	大凧のミニチュア、凧連の衣装、令和元年度制作の映像資料等の展示が可能。
⑫	自然	谷戸山公園の水鳥	県立谷戸山公園内「水鳥の池」には、年間を通じて様々な種類の水鳥が訪れる。これを紹介することにより、相互に来館者・来園者が行き交う関係を構築する。
⑬	自然	動物	芹沢公園、谷戸山公園、田圃、川等に棲息する動物類
⑭	自然	植物	モクセイ、白欒、欒、ひまわり、芹沢公園の植物、谷戸山公園の植物等
⑮	自然	座間丘陵・河岸段丘	座間の地形を一望できる模型を展示することで、地形の特徴を効果的に学ぶことが出来る。
⑯	自然	湧水	「ごまみず」等の形で開発されている、観光資源の一つ。郷土博物館では、地形模型に組み込んで段丘壁と湧水地の関係を示したり、模式図で湧水の仕組みを示したりすることができる。
⑰	自然	箱根新期火砕流	約6万6000年前に起きた箱根火山の噴火による火山灰が堆積した白い地層で、軽石が主体である。地層標本を展示することで、有史以前の出来事を学ぶことができる。



## 座間市の文化財等に関する調査 (主催イベント参加者用) 第 1 回調査 集計結果

- 調査日 平成 30 年 1 月 27 日 (土)
- 調査場所 ハーモニーホール座間 2 階大会議室  
文化財講座「座間の養蚕の歴史」
- 参加者 39 名
- 回答者 37 名

問 1 : あなたの性別を教えてください。

性別	人数	割合
男性	17	46%
女性	20	54%

問 2 : あなたの年齢を教えてください。

年齢層	～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70歳～
人数	0	0	3	1	5	8	20
割合	—	—	8%	3%	13%	22%	54%

問 3 : お住まいの地域を教えてください。

地域	入谷	栗原	栗原中央	小松原	相模が丘	さがみ野	座間	新田宿	相武台	立野台
人数	4	1	4	0	4	0	2	1	1	0

地域	西栗原	東原	ひばりが丘	広野台	緑ヶ丘	南栗原	明王	四ツ谷	その他
人数	1	0	6	2	3	1	2	3	2

問 4 : 今回の講座 (講演会) に参加した理由 (複数回答可)

参加した理由	回答数
今回の講座のテーマに興味があったから	28
家族や友人に誘われたから	2
文化財や歴史に関することが好きで、よく参加している	18
文化財や市史に関する仕事や研究を行っているので勉強のため	9
講師の関係者	1
その他	0

問 5：市が開催している、郷土を紹介する講座などを知っていますか。

講座の種類	回答数	講座の種類	回答数
郷土講演会	18	早朝探鳥会	1
文化財講座	21	文化財めぐり	22
郷土の食文化講座	5	常設展示室で行うパネル展	11
自然観察会	12	その他	0

問 6：問5の講座に参加したことはありますか。

	人数	割合
ある	27	82%
なし	6	18%

問 7：(問6で「ある」と回答した人へ) 参加した講座は何ですか。(自由回答)

座間の湧水、座間の街道（文化財めぐり？）（男性・70歳～）
図書館の調べ学習講座（図書館活用講座？郷土かるた？）（男性・70歳～）
座間の古道、民権運動、学童疎開（女性・70歳～）
相模川に関する講座、文化財めぐり（複数回）（男性・70歳～）
芹沢水源巡り（男性・60代）
巡礼街道、相模の弥市のふるさと、座間・神奈川の古代道、座間の歴史を知る、噴火と火山灰層（女性・70歳～）
文化財巡り、パネル展、文化財講座、郷土講演会（男性・70歳～）
その他（女性・60代）
文化財講座（男性・60代）
文化財講座、文化財巡り（女性・70歳～）
郷土講演会（女性・30代）

問 8：今後、市で行ってほしい企画などがありますか。(複数回答可)

企画内容	回答数
1つのテーマを複数回に渡って詳しく講義・研究する講座	18
土器作成など、親子で参加できる体験講座	6
文化財や史跡出土品等がいつでも見たり触れたりできる場所の設置	18
文化財など実際にある場所におもむいて行う講座	14
市内の大規模商業施設等での文化財や歴史についての講座や展示	10
その他	1

※その他＝「前にやったことをやってください」1名

問 9：市内にある文化財を知っていますか。(複数回答可)

文化財等名称	回答数	文化財等名称	回答数
星谷寺梵鐘	30	鈴鹿横穴墓群	16
星谷寺文書	9	梨の木坂横穴墓群	22
鈴木家鍛冶文書	6	鈴鹿遺跡	8
大矢家文書	12	相模野基線南端点	16
飯島家文書	5	相模野基線中間点	17
円教寺写経	6	咲き分け散り椿	18
栗原学校扁額	15	大ケヤキ	27
刀剣「相州住綱廣」	5	桑	12
刀剣「相州住周廣」	5	ニッケイ	12
鏡	6	シラカシ	16
釈迦如来立像	6	椿	12
岩城常隆供養五輪塔	11	祭囃子『かまくら』『やたい』	5
石造大日如来座像	8	座間歌舞伎(入谷歌舞伎)	18
六字名号碑	12	座間市内の湧水	23
蜻蛉灯籠	10	大凧風習(大凧まつり)	24
神変大菩薩碑	10	県立座間谷戸山公園など里山の自然	25
宝篋印塔	16	市内の石造物	12
寺子屋師匠 保田安兵衛供養塔	11	ひまわり畑(ひまわりまつり)	24

問 10：市内各所に設置している文化財照会の案内板や道標などを知っていますか。

	人数	割合
知っている	22	85%
知らない	4	15%

※「知っている」回答者の意見＝「少しだけ」1名、「『大塚宿に買い物客でにぎわった』『六道の辻にぎわっている』は文章として妥当か」1名、「最近できた道標の字が小さい」1名

問 11：市が発行している、市の歴史や文化財院に関する書籍などを知っていますか。(複数回答可)

刊行物名称	回答数	刊行物名称	回答数
座間市史	25	座間の地名	14
座間市史資料叢書	6	新版座間の湧水	13
座間の語り伝え	19	郷土かるた	17
座間むかしむかし	25	座間の文化財めぐり「ふるさとマップ」	19
座間のむかし話絵本	13	その他	4

※その他の記入なし

問 1 2 : 座間市公民館 2 階にある郷土学習室を知っていますか。

	人数	割合
知っている	21	66%
知らない	11	34%

問 1 3 : 問 1 2 で「知っている」を選んだ方へ、郷土学習室の利用や展示物の見学をしたことはありますか。

	人数	割合
ある	14	74%
ない	5	26%

問 1 4 : 問 1 3 で「ある」を選ばれた方へ、感想を教えてください。(自由回答)

規模小さい(男性・60代)
存在をもっとPRしたほうがよい(女性・60代)
市民にPRしてほしい(男性・60代)
あすなる(男性・70歳～)
古い、整理が悪い(男性・70歳～)
あの状態では展示物が可哀そう。でも仕方がないかなぁ・・・(女性・70歳～)

問 1 5 : あなたが訪れたことのある博物館等があれば、その種類を教えてください。(複数回答可)

博物館種別	回答数	博物館種別	回答数
歴史博物館	22	水族館	18
自然系博物館	14	総合博物館	10
科学館	20	特定のテーマを取り上げた博物館	11
美術館	21	その他	2
動物園	20		

※その他＝「シルク博物館」1名、未記入1名

問 1 6 : 現在、座間市に郷土資料館(歴史や文化財を常に展示し、講座などを数多く行うことが出来る専用施設)がありません。必要だと思いますか。

	人数	割合
絶対に必要	15	50%
必要	9	30%
郷土学習室で充分	4	13%
必要ない	2	7%

問17：問16で「絶対に必要」「必要」を選ばれた方へ、座間市に新しく郷土資料館が設置されるとしたら、どのようなものが良いと思いますか。（複数回答可）

	回答数
貴重な資料をたくさん収納・展示できる施設	19
市民が自主的に研究しその成果を発表できる施設	8
ジオラマや模型など、触れたり試したりできる資料を展示する施設	12
子どもたちが気軽に行けて、いろいろ学べる施設	12
座間の地形や市域に生息する動植物について学べる施設	14
文化財や歴史調査の方法や埋蔵文化財発掘の技術などを学べる施設	13
その他（意見なし）	1

問18：郷土資料館が設置されたとして、ボランティアスタッフとして運営に参加したいと思いますか。

	人数	割合
思う	8	28%
自分は出来ないがボランティアはいたほうがいい	19	65%
思わない	2	7%

問19：問18で「思う」を選ばれた方へ、どのような活動に参加したいか教えてください。（複数回答可）

	回答数
展示ガイド	4
資料整理	5
調査研究	5
講演会やワークショップ補助	2
自然観察会スタッフ	1
その他	0

問20：座間市に郷土資料館を設置することについてなど、希望やご意見を自由にお書きください。（自由回答）

ただの展示ではなく、動かして見せて欲しい（男性・70歳～）
子どもの育成・高齢者の生涯学習（男性・60代）
6歳と3歳子育て中です。子育てや自分の経験から問17④のような資料館は不安を感じます。それよりも学校等での教育の中で郷土に感ずる内容を充実させてはどうでしょうか。本当に興味がある子ども達は気軽に行けなくても自らで情報収集・体験をしていくと思います（女性・30代）
ありがとうございます（女性・50代）

# 座間市の文化財等に関する調査 (主催イベント参加者用) 第2回調査 集計結果

- 調査日 平成30年2月17日(土)
- 調査場所 ハーモニーホール座間2階大会議室  
郷土講演会「地理学からみた座間と相模川」
- 参加者 38名
- 回答者 36名

問 1：あなたの性別を教えてください。

性別	人数	割合
男性	26	72%
女性	10	28%

問 2：あなたの年齢を教えてください。

年齢層	～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70歳～
人数	0	0	0	0	2	8	26
割合	—	—	—	—	6%	22%	72%

問 3：お住まいの地域を教えてください。

地域	入谷	栗原	栗原中央	小松原	相模が丘	さがみ野	座間	新田宿	相武台	立野台
人数	11	0	1	2	5	0	0	0	2	3

地域	西栗原	東原	ひばりが丘	広野台	緑ヶ丘	南栗原	明王	四ツ谷	その他
人数	0	0	5	3	0	1	0	2	1

問 4：今回の講座(講演会)に参加した理由(複数回答可)

参加した理由	回答数
今回の講座のテーマに興味があったから	31
家族や友人に誘われたから	0
文化財や歴史に関することが好きで、よく参加している	21
文化財や市史に関する仕事や研究を行っているので勉強のため	2
講師の関係者	0
その他	1

※その他＝「座間のことを何も知らないのを知りたかったからです。座間神社の水は全国的にも有名で茶道をやっている方は引越してでも住みついて水を飲みたいと思っている人が多いと東京の人にききました。」1名

問 5：市が開催している、郷土を紹介する講座などを知っていますか。

講座の種類	回答数	講座の種類	回答数
郷土講演会	22	早朝探鳥会	7
文化財講座	20	文化財めぐり	21
郷土の食文化講座	4	常設展示室で行うパネル展	13
自然観察会	10	その他	2

※その他＝「ほとんど浅い理解ですが知っています。」1名、「健康文化大学在学中」1名

問 6：問5の講座に参加したことはありますか。

	人数	割合
ある	27	79%
なし	7	21%

問 7：問6で「ある」を選ばれた方へ、参加された講座などを教えてください（自由回答）

座間とカイコ（女性・70歳～）
文化財めぐり（いっぺい窪と遊水地）、相模川と座間（昨年）（男性・70歳～）
文化財めぐり（女性・70歳～）（男性・70歳～）2件
養蚕・文化財めぐり（男性・70歳～）
毎年開催されている文化財講座（郷土講演会）に参加しています（男性・60代）
座間と養蚕、芹沢水源巡り（男性・60代）
文化財講座、自然観察会、文化財めぐり、パネル展（男性・70歳～）
戦国時代の座間（男性・60代）
座間と養蚕の歴史、座間、神奈川の古代道、座間の水源、巡礼街道の史跡（女性・70歳～）

問 8：今後、市で行ってほしい企画などはありますか。（複数回答可）

企画内容	回答数
1つのテーマを複数回に渡って詳しく講義・研究する講座	17
土器作成など、親子で参加できる体験講座	2
文化財や史跡出土品等がいつでも見たり触れたりできる場所の設置	15
文化財など実際にある場所におもむいて行う講座	17
市内の大規模商業施設等での文化財や歴史についての講座や展示	7
その他	0

問 9：市内にある文化財を知っていますか。(複数回答可)

文化財等名称	回答数	文化財等名称	回答数
星谷寺梵鐘	28	鈴鹿横穴墓群	12
星谷寺文書	7	梨の木坂横穴墓群	26
鈴木家鍛冶文書	5	鈴鹿遺跡	6
大矢家文書	10	相模野基線南端点	13
飯島家文書	4	相模野基線中間点	14
円教寺写経	4	咲き分け散り椿	16
栗原学校扁額	13	大ケヤキ	24
刀剣「相州住綱廣」	2	桑	9
刀剣「相州住周廣」	2	ニッケイ	9
鏡	3	シラカシ	13
釈迦如来立像	9	椿	10
岩城常隆供養五輪塔	11	祭囃子『かまくら』『やたい』	3
石造大日如来座像	9	座間歌舞伎(入谷歌舞伎)	21
六字名号碑	12	座間市内の湧水	31
蜻蛉灯籠	11	大凧風習(大凧まつり)	26
神変大菩薩碑	7	県立座間谷戸山公園など里山の自然	31
宝篋印塔	15	市内の石造物	13
寺子屋師匠 保田安兵衛供養塔	8	ひまわり畑(ひまわりまつり)	27

問10：市内各所に設置している文化財照会の案内板や道標などを知っていますか。

	人数	割合
知っている	22	85%
知らない	4	15%

※「知っている」回答者の意見＝「数が少ないと思う」1名、「番神水の標柱で方向指示のないものが一基あり方向を示す表示が欲しい」1名、「自家近隣の範囲のものは見ます 郷土への愛着が湧きます」、「簡易な説明でわかりやすいと思います」、1名「字を大きく 英語・中国語・ハングルも必要」1名、「歩いている時に見ますが止まってじっくり読んだ事がない」1名、「あることは知っているが、内容等知らないため興味がわかなく “ある”のみで終わっている。広報・タウンニュースなどのPRが必要かも」

問 1 1 : 市が発行している、市の歴史や文化財院に関する書籍などを知っていますか。(複数回答可)

刊行物名称	回答数	刊行物名称	回答数
座間市史	24	座間の地名	12
座間市史資料叢書	5	新版座間の湧水	10
座間の語り伝え	13	郷土かるた	11
座間むかしむかし	21	座間の文化財めぐり「ふるさとマップ」	19
座間のむかし話絵本	8	その他	0

問 1 2 : 座間市公民館 2 階にある郷土学習室を知っていますか。

	人数	割合
知っている	17	52%
知らない	16	48%

問 1 3 : 問 1 2 で「知っている」を選んだ方へ、郷土学習室の利用や展示物の見学をしたことはありますか。

	人数	割合
ある	14	82%
ない	3	18%

問 1 4 : 問 1 3 で「ある」を選ばれた方へ、感想を教えてください。(自由回答)

数が少ないと思う (男性・70 歳～)
休眠状態で説明が古い (男性・70 歳～)
他市町にあるような見ごたえのある会場に展示を望む (男性・70 歳～)
コンサートなどの時に立ち寄る程度で 1・2 回見学をさせていただいております (男性・70 歳～)
もっと広い場所で品数もふやした方が良くとおもいます (男性・70 歳～)
古い、説明がわかりにくい (男性・70 歳～)
残念 (男性・60 代)

問 1 5 : あなたが訪れたことのある博物館等があれば、その種類を教えてください。(複数回答可)

博物館種別	回答数	博物館種別	回答数
歴史博物館	23	水族館	25
自然系博物館	21	総合博物館	15
科学館	22	特定のテーマを取り上げた博物館	12
美術館	28	その他	2
動物園	23		

※その他＝「国分寺跡 (海老名市) 小さな博物館であるがとても関心をもった思い出があります」1 名、「上野科学博物館」1 名

問 16：現在、座間市に郷土資料館（歴史や文化財を常に展示し、講座などを数多く行うことが出来る専用施設）がありません。必要だと思いますか。

	人数	割合
絶対に必要	17	77%
必要	3	14%
郷土学習室で充分	2	9%
必要ない	0	—

問 17：問 16で「絶対に必要」「必要」を選ばれた方へ、座間市に新しく郷土資料館が設置されるとしたら、どのようなものが良いと思いますか。（複数回答可）

	回答数
貴重な資料をたくさん収納・展示できる施設	28
市民が自主的に研究しその成果を発表できる施設	4
ジオラマや模型など、触れたり試したりできる資料を展示する施設	18
子どもたちが気軽に行けて、いろいろ学べる施設	17
座間の地形や市域に生息する動植物について学べる施設	15
文化財や歴史調査の方法や埋蔵文化財発掘の技術などを学べる施設	17
その他（意見なし）	1

※その他＝「地形の形成など、地質についても知りたいです」1名

問 18：郷土資料館が設置されたとして、ボランティアスタッフとして運営に参加したいと思いますか。

	人数	割合
思う	10	32%
自分は出来ないがボランティアはいたほうがいい	18	58%
思わない	3	10%

問 19：問 18で「思う」を選ばれた方へ、どのような活動に参加したいか教えてください。（複数回答可）

	回答数
展示ガイド	8
資料整理	4
調査研究	4
講演会やワークショップ補助	0
自然観察会スタッフ	2
その他	0

問20：座間市に郷土資料館を設置することについてなど、希望やご意見を自由にお書きください。(自由回答)

今の郷土学習室がどの程度使われているかによるので、もっと宣伝して希望する。声が多ければ設置してもいいが箱物先行するより講座等を増やしていく方が良いのではないか(女性・60代)
具体的なスケジュールと場所(候補地)などを決めてほしい。特に古文書や資料が散逸しないようにしてほしい(男性・70歳～)
相模原市、町田市、海老名市などときどき出かけております その充実ぶりにはおどろきました。あまり大がかりのものでなくてよいのですが、郷土の座間のためには小規模なものでも必要かと思われます。期待をしております(男性・70歳～)
今残さなければ無くなってしまふものがあります。今のうちに手を打って残してほしいと思います。(そんなに古いものでなくても確保する意味があると思います)(例 座間であったかどうか 膳碗講 今ほとんどなくなっています)(男性・70歳～)
この講座を機に郷土の歴史・文化・風俗やその他資料を参考にし座間を知りたい。座間に住んで40年程になるが、都内に勤め3年程に仕事をリタイアし毎日寝に帰るのみの様な生活で地元のこと何事も知らないのが現状なので色々と勉強したい(男性・70歳～)
少額なら寄付します(男性・70歳～)
座間市には郷土の資料、文化財を一堂に集めた施設がありません。そうした施設を是非設置していただきたいと思います(男性・70歳～)
座間市は大凧上げ祭、鈴鹿神社、座間神社、星谷寺それと座間キャンプは有名であるが、その他の寺社仏閣はあまり知られていないのではないか？(小生の勉強不足?)市の教育委員会も市の文化財をもっとPRすべきである。この辺失礼ながら海老名市を見倣うと良いと思う。(リーフレット案内、現地案内、説明文)(男性・70歳～)
大規模のものでなくても、個別に独立した施設が望ましいのではないか。中身もある程度絞った内容が良いと思う(男性・70歳～)
人口の入替がある地域には自分の住む所を知るうえで絶対必要(男性・70歳～)



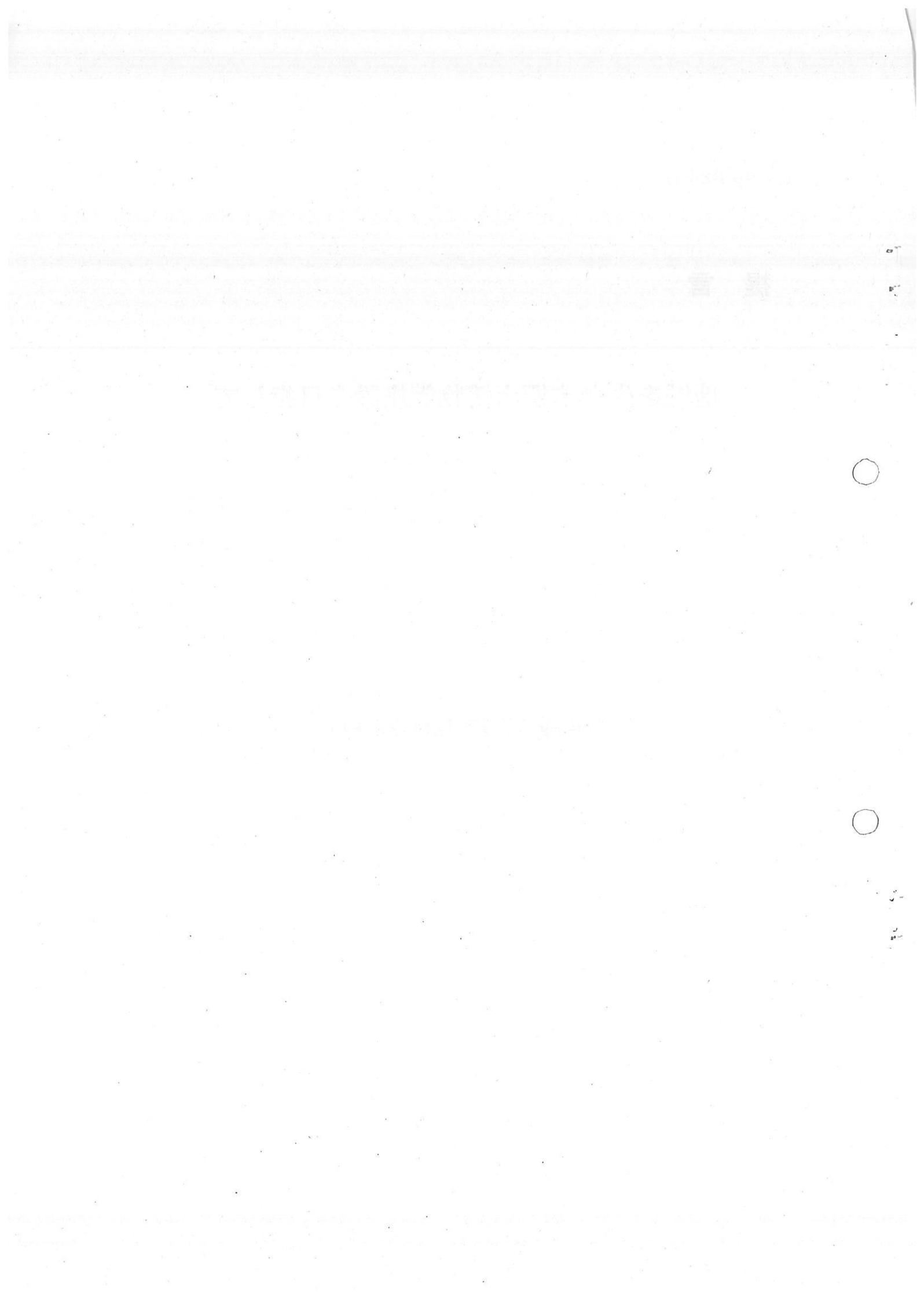
(参考資料)

提 言

地域を生かす郷土博物館施設を目指して

平成 17 年 1 月 28 日

「座間市にふさわしい博物館をめざして」合同検討会議



## はじめに

平成3年に策定された座間市第三次総合計画では、文化財の保存と活用を図るため、ふるさと座間にふさわしい博物館整備が位置付けられている。

これを受け、平成8年度からは博物館にかかわる関係図書の購入や県内市町村博物館施設の統計資料の収集などを行う一方、平成10年度の茅ヶ崎郷土資料館への文化財保護委員・文化財調査員の合同視察を皮切りに先進各市博物館等へ視察見学するとともに、平成11年度からは「座間市にふさわしい博物館をめざして」ということで、文化財保護委員5名、文化財調査員5名による合同検討会議を設け検討を進めることとなった。

その後の経過などの詳細は後述しているところであるが、これらの協議が進む中で、各委員は、自らの専門分野にとらわれずに本市にとってふさわしい博物館とは、あるいはどのようにあるべきかについて真摯な意見を交換し、まとめたものが本提言書である。

本市の成り立ちや今後の行く末を思いはかるとき、13万人市民の拠り所の一つとして郷土座間には是非とも博物館施設の設置が必要であると考えます。この提言をいしずえとして本市にふさわしい博物館の設置に向けて、さらなる方策がなされることを委員一同、切に望みます。

平成17年1月28日

「座間市にふさわしい博物館をめざして」合同検討会議座長

座間市文化財保護委員会

会長 金子 皓彦

## 1. これまでの経過

### ① 平成11年3月26日

茅ヶ崎市郷土資料館合同視察（文化財保護委員、文化財調査員協議会）

茅ヶ崎市郷土資料館の現状や市民活動の状況について、茅ヶ崎市教育委員会文化財担当職員から説明を受け、その後、視察委員及び茅ヶ崎市教育委員会職員と意見交換。

### ② 平成11年10月22日

文化財保護委員、文化財調査員協議会による合同検討会議（以下、「合同検討会義」とする）。

第三次座間市総合計画の中での「博物館の構想を進める」という位置付けを事務局から説明し、「座間市にふさわしい博物館をめざして」ということで意見を出し合う。

この席上において、合同検討会議座長に座間市文化財保護委員会副会長（当時）の金子皓彦を選出。

これ以降、まず、施設の規模などにこだわらず、座間にとっての博物館、あるいは何を盛り込むべきかなどを検討。

### ③ 平成12年3月22日

合同検討会議

前回の会議を踏まえ、多角的な視点から検討を行う。

ネットワークシステムや、バーチャルリアリズムなどの導入、学校教育と生涯学習の連携、資料の活用方法、市民活動などについて話し合う。

### ④ 平成12年8月23日

合同検討会議

具体的な地域資産の検討例として「日産座間工場」や「陸軍士官学校」などをとりあげる。

また、今後の会議の進め方及び博物館のあり方などが話題となり、いままでの会議経過を整理、今後の検討内容を深めることとした。

### ⑤ 平成13年2月16日

合同検討会議

これまでに出示された29件の意見と、事務局で付加した2件の31件を5分野に分類し、検討を加える。

### ⑥ 平成15年2月14日

これまでの会議の成果を受けて、検討資料「地域特性を生かした博物館施設を目指して」を作成、さらに検討を加える。

## 2. 合同視察

本市周辺の博物館施設などについては、文化財保護行政の事例研究のために第三次総合計画立ち上げ以前から合同視察を行ってきた。

昭和62年度（1987）

町田市立自由民権資料館・東京都埋蔵文化財センター

昭和63年度（1988）

山梨県立考古学博物館

平成元年（1989）

大磯町立郷土資料館

平成2年度（1990）

相模川ふれあい科学館（相模原市）、山十郎（愛川町）、宮ヶ瀬ビジターセンター（清川村）

平成3年度（1991）

町田市立国際版画美術館、同市博物館

平成4年度（1992）

八王子市郷土資料館、滝山城（八王子市）

平成5年度（1993）

川越市立博物館

平成6年度（1994）

横浜市歴史博物館（港北区）

平成7年度（1995）

相模原市立博物館

平成8年度（1996）

平成8年度（1996）

川崎市立民家園他

平成10年度（1998）

茅ヶ崎市郷土資料館

平成12年度（2000）

府中市立府中美術館

平成13年度（2001）

町田市立薬師池公園他

平成14年度（2002）

府中市立府中の森博物館、日野市立資料館

### 3. 博物館施設のあり方についての意見交換

前述のように文化財保護委員と文化財調査員は昭和62年度から平成14年度までの10余年の間、県内外の博物館施設などについて合同視察を重ねた。

この時期は、日本の経済成長がバブル期に入りやがて終息に向かうときであったことから、施設的に「重厚長大」なものや、小規模だが「山椒は小粒でもピリリと辛い」的に独自の運営方針を持って市民の要望に答えているものなど、それぞれの長所短所を見ることができた。

この視察を通じて、その後の第三次総合計画の博物館にかかわる検討を進める上で、客観的に本市にとって良いものという観点での基本的な発想が形成された。

以上のようなことを背景に、検討合同会議では、最初に博物館ありきということよりも様々な視点から検討・議論を進めることとした。

数多くの議論がなされ、その中には、本市にとって本当に博物館は必要なのか、あるいは、発展・普及の目覚ましいインターネットなど情報システムを活用した「仮想空間」の中で「博物館」「美術館」を設けることはどうか、本市にゆかりの深い自動車企業の施設や機械を展示に生かすとか、あるいは例として博物館といえば「学ぶ」といった印象が強いが先ず「遊ぶ」といったことを基本の一つとしてはどうかなどの意見が展開された。

これら委員同士の意見交換の中で、博物館施設を拠点の一つとして地域内に内在する様々な要素を引き出し、これらを多角的に活用するための企画及び事業を継続的に行うことで「地域を生かす」という共通の認識がなされた。

#### 4. 地域的な特性・特質を生かす

本市は以下にあげる特性や特質をもっている

位置的には神奈川県の中央部にあり、地形は起伏に富み、湧水や相模川・目久尻川などの河川に沿って有史以前から集落が形成され、国史の一つである「続日本紀」の宝亀2年(771)12月の太政官奏上に座間の古名「夷参」が見られ古代においても交通の要衝であったことがうかがわれる。

一方、民俗芸能・民俗習俗では、祭囃子・田舎歌舞伎、大凧揚げ、ドンド焼きなどの長年にわたり伝承されてきたものがある。

また、自然環境も県立座間谷戸山公園をはじめ里山の形態を残した地域が都市化の進んだ中にも散見される。

この他にも、新田宿地区の水田地帯には県下有数の渡り鳥飛来地があるなど動植物についても特性がある。

以上のことから、これらは本市にふさわしい博物館の構想を進める上で重要なポイントである。

さらに、これらの自然環境を生かした施設の位置付けが可能であり、あわせて、本市への来訪者に対する紹介や、現在、小中学校で実施されている総合学習などにも対応するための場としての在り方も考慮すべき点である。

また、施設の建築に際しては歴史的建造物の活用も含め様々な事例を研究し、多くの人に親しんでもらえることを目指す。

#### 5. 生涯学習の視点から

生涯学習は「いつでも」「どこでも」「だれでも」が学習できるといった大きな目標・目的をもっている。

これからの博物館施設は、この点を重視し、利用者の学習・研究などの成果の発表が自主的かつ継続的になされる場であることを位置づける。

#### 6. ふるさと「座間」の紹介の場として

近年、県立座間谷戸山公園や鈴鹿長宿歴史の里などの整備が進み、新聞など様々なメディアを通じて紹介され、四季を通じての本市への訪問者は年々増加の傾向が見られる。

このことも大切な要素であり、自主学習の場として存在することとあわせ、市民以外のビジター(訪問者)に対しても「ふるさと」を体感・紹介できる場とすることにより、座間を紹介することができ、より良いアピールができるものと考えられる。

また、市内小中学校での「総合学習」の郷土学習の場としての活用も合わせて考慮する。

#### 7. 市民ボランティアとの連携

施設の運営については、市民ボランティアの参画を積極的に得ることで、展示や行事に特徴ある博物館施設のあり方を生かす。

ボランティアは、現在、サークル化した「座間ふるさとガイドの会」や谷戸山で活動している団体、将来、館自体で育成した団体などの幅広い参加を募ることにより、有形無形の文化財や自然の要素を柔軟かつ有効に活用することができ、優れた公的資産投資が成されるものと考えられる。

## 8. 博物館機能の設定について

本市にふさわしい博物館としては、これまで述べてきたことを基軸として、利用者が体験することのできる「たのしみ」「ならう」「くつろぐ」を基本導入とし、館の運営にさまざまな可能性・継続・継承性をもった目標設定と、その定期的な見直しを行う。

また、博物館には様々な機能があり、その大きなものの一つに「物」をとおして人に関わることや自然にかかわることを展示・研究することであった。

これは展示物をとおして博物館側と来館者の間接的な交流や、ボランティア活動による収蔵物整理や展示を行うことである。

本市ではさらにもう一步踏み込んで、生涯学習の根拠地の一つとして、利用者の積極的活用により自らが研究し知識を得る「場」となるために、一例として市民の学習チームによる地域調査の成果を展示するなどの工夫をすることなど、開かれた施設運営を目指す。

さらに博物館の基礎的な機能である「保存」「調査」「研究」を充実して、「市民の生き字引」的に活用されるデータベースの構築を目指すとともに、情報提供が容易に行える役割を目指す。

その上で、これらの成果をインターネットやバーチャルリアリティなど電子メディアを活用して情報を紹介することを構想の中にもりこむ。

また、民俗芸能など無形文化財の継承についても、保存団体と積極的に協調し、後継者の育成に関わる施設の整備、事業の企画などを視野にいれた柔軟な対応を配慮する。

## 9. 博物館設置にかかわる場所について

これまでの協議の場において具体的な地名や面積などの話題にはふれなかった。しかし、博物館施設をどこにもうけるかは重要な問題である。

周辺市町村の状況を見ると、その存在が地の利を生かした場所に設置されている例は、必ずしも多くない。

そこでいくつかのポイントを考慮してみると

### ① 交通の利便性をはかれる

利用者の来訪に不可欠な要因である。

自動車の運転のできない児童・青少年や高齢者にとって重要なポイントである。

### ② ユニバーサルデザインを取り入れる

少子高齢化が進む中で、「ユニバーサルデザイン」を考慮した施設を思考する。

### ③ 活動

博物館施設の存在は普段の活動にかかっている。後述のポイントと重なる面もあるが、周辺の自然や歴史的環境に重きを置くことは、館内外の活動を積極的に行う上で重要な意味を持つ。

### ④ 活動領域の確保

地域博物館施設として最も重要なことは先に述べたことに重なるが、市民参加を含めた調査研究、発表など継続的な活動を行うのに適した地域を確保することである。

このために、地域を博物館として考えることや、ワンデーウォークなど市内の水田や林、公園を巡回して自然環境などを体験学習するフィールドワークなどを考慮する。

### ⑤ 歴史的環境

施設に近接して、なるべく歴史的環境を容易に体感・観察できる地域が望ましい。

施設を訪れる人が、館内展示の紹介と合わせて周辺の雰囲気や景観を、主体的に楽しんで受け入れてもらう地域が必要である。

### ⑥ 用地取得の可能性

用地取得の可能性は、施設を設ける上で必須条件であり、あらゆる機能の<sup>かなめ</sup>要である。

現状の市有地などの中で選択が可能なものを活用する事も構想を進める上で重要になってくる。

### ⑦ 必要面積の確保

施設の必要面積は、構造にもよるかもしれないが、展示のみに重点を置くのではなく、施設の性格に基づいて考慮し、博物館施設の展示機能や収蔵保存機能などを分離設置することによって有効活用を図る。

### ⑧ 地域の活用

歴史や自然環境など地域の資産や特性を生かし、相互的活用がスムーズに実行できる場所を選択することは、本市にふさわしい博物館施設を整備する上で重要である。

## 10. 今後の方針について

国では地方への権限委譲施策を進めている。これは自治体行政活性化を前提にしたものである。

特に教育行政及び文化行政については今後、著しい変化が見られるものと思われ、それぞれに合った行政対応を考慮し柔軟な体制での機関や施設の運営及び経営が行われるものと思われる。

そのような意味から、設置に際しては、施設及び機関の経営を含めた運営と情報発信、資料の保存や活用といった面について、幅広い検討を要する。

さらには、ハードウェアを生かしきるために、市民の幅広い活動と協力を前提にすることが重要である。

また、平成15年6月には、これまでの「公立博物館の設置及び運営に関する基準」(昭和48年文部省告示第164号)については、全改正が行われ、新たに「公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準」が告示された。

これによれば、旧告示の中で規定されていた、定義や面積の規定がなくなり、また、必要な施設の規定についても各自治体の実勢により必要なものを設けることができるようになった。(参考資料)

以上のようなことをふまえ、これまでの「座間市にふさわしい博物館の設置について」の合同会議の成果に基づいて「博物館設置準備のための委員会」を設け、どの地域に、どのようなタイプで、この座間市に博物館を設けるべきなのかを検討することが必要であると考える。

委員会の活動については

#### ①市民ニーズの調査

どのような活用、経営、運営を目指すか、あるいは、望むか。

#### ②博物館施設の性格について

「地域の資産」を生かすためには、どのような活動・展示を行うべきか。

#### ③施設の設置場所について

老若男女の市民や市外の利用者ができるだけ多く活用でき、館の活動が行いやすいところはどこか。

#### ④市内外各施設との連携について

市内には社会教育施設として座間市公民館、北地区、東地区文化センターの各公民館施設と、都市公園として全国的にも珍しい里山の自然を生かした「県立座間谷戸山公園」、シラカシの林を生かした芹沢公園などがある。

また、市外には相模原市の「相模原市立博物館」、大和市の「鶴舞の里郷土資料館」や海老名市の「温故館」などがあり、これらの施設との情報交換や活用、共同企画などの連携を検討する。

#### ⑤インターネット環境の活用

博物館施設の幅広い活用をはかる上で、通信メディアの活用は今後の施設運営の中で欠くことのできない要素であり、いかに館の事業や資料を見やすく紹介するかを検討する。

## ⑥館のコストパフォーマンスについて

かつての「まず施設ありき」の中で設置された博物館施設の多くが、現在、施設の維持管理について大きなコストを要している現状が見られる。

このようなことから、長期的な展望にたって館の施設がコストパフォーマンスにすぐれ、合わせて、環境に配慮したものを検討することが重要と思われる。

## ⑦経営理念の導入

⑥と合わせて、館の運営がより効率的に行われることを考慮する上で、どのようにアピールし、集客するかを経営的な面から考慮、検討する。また、指定管理者制度の導入についても併せて検討する。

などをたたき台とし、他の課題をも俎上にあげて検討をはかり実現への歩を進める。

## 11. 博物館施設のあり方

今後検討される博物館施設は、施設の規模や展示などの要素にとらわれずに、有形・無形の本市の資産を生かす企画と、情報提供を行うためのデータベースが相互に影響しあうことを考慮した機関であることを配慮すべきである。

これらを生かすために前述のように、先ず「ふれあい」の観点を重視し、そこから「たのしみ」「ならう」「くつろぐ」の分野へ利用者が円滑に移行できるように考える。

そのために、市内を幾つかの地域に分けて、それぞれの特性や成り立ち、現況などを基本的に調査研究することを目的の一つとする。

さらに、これまで収集された考古学及び民俗資料や古文書などについて博物館活動に活かすことを考慮する。

また、極端な目玉展示（恐竜などのジオラマ＝立体模型）に重点をおかず、例えば相模野台地の変遷を地質学・歴史学・民俗学的な視点から再現する時などは、電子技術を活用したバーチャルリアリティを用いて、視覚的な再現とデータの提供など来館者を含めた利用者に提供する。

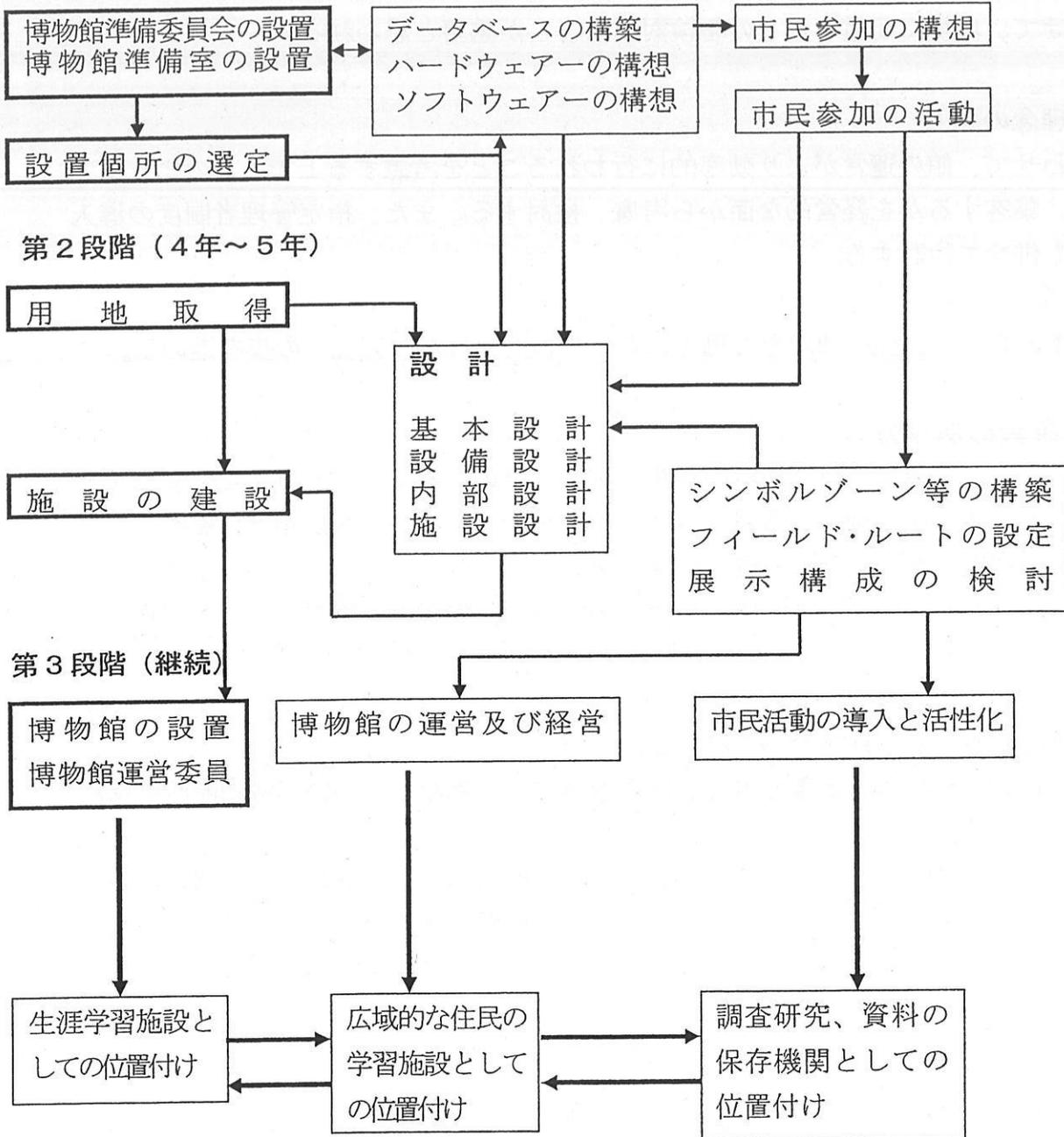
これによって開館後の経年変化によるソフトウェアの改善や切り替えにより、機器本体の交換よりもコストパフォーマンスに優れた経営が達成される。

なお、施設本体については建物の内外について奇をてらわず、地域の資産を生かした利用しやすい構造を考慮する。

さらに、本市の状況から保存・整理などのスペースは、博物館施設と同一の用地内に設置することにはこだわらず、適宜な場所にそのスペースを設置することも考慮する。

# 今後の進行

## 第1段階 (4年~5年)



「座間市にふさわしい博物館をめざして」合同検討会メンバー

○ 座間市文化財保護委員会

故 井上 治夫 (平成 11 年まで)  
故 富山 繁人 (平成 11～16 年まで)  
金子 皓彦 (会長 合同検討会座長)  
久保田昌希  
瀬戸 正夫  
藤野 知弘

座間市文化財調査員協議会

北田 茂 (会長)  
大谷 之彦 (副会長)  
岩井 護  
井上通千男  
田中東一郎

事務局 座間市教育委員会生涯学習部生涯学習課文化係

## 【補遺】 地域的な資産について

地域的な資産は、具体的に言えば、身近な石造物や寺社仏閣、祭などの行事、名物、昔話、林の中の草花・昆虫・野鳥など手に触れる、目で見ると、耳で聞く、味覚として感じる、匂いを嗅ぐなど五感で体験できるものが対象となり、道を歩いて感じるものや、体験するもの、観察をしながら発見することや人と話しながら聞くことができるものである。

一方、五感で感じることもできても、なかなか触れ合うチャンスの無いものもある。

例えば、歴史的な古文書、遺跡、微妙な自然現象、昔の道具とその使い方などは、専門家・体験者の指導助言が無ければ触れ合うことのできないものに類する。

あわせて、地域独特の行事などは地域に溶け込まなければ体験することができない場合や、その土地の食べ物などの名物も同じように様々な助言や指導が必要なものである。

これだけをとらえてしまうと「昔懐かしい」という面が強調されるように感じられるが、過去が終結して現在が存在するのではなく、時間の連続した継続が現在に通じている訳で、過去を評価し得ない現在はありません。

そのような意味から現代・現在も日々刻々と変わっており、本市の広野台、相模が丘、小松原、ひばりが丘などの開拓や東原周辺の軍事工場の進出とその後の開発、陸軍士官学校からキャンプ座間への変遷などは、これらを知る上で絶好のフィールドであるといえる。

以上を踏まえた上で「座間にふさわしい」博物館施設を考慮することが重要である。



## 座間市の地域的な特色を探るために

座間にふさわしい博物館は、市内各地域の様々な特色を生かす活動が必要と  
なってくる。

そこで、自然と人間の環境への係わりを視野に入れ考慮してみるとかなり大  
まかではあるが以下のような区分が可能であり、これらを研究し様々な活用を  
図ることを考慮する

### 1. 緑のゾーン

市内の水田や耕作地、公園、斜面緑地など

相模川流域の水田や相模川河岸段丘、目久尻川沿岸の斜面緑地等や、耕作地、  
市内各所の公園など。

### 2. 街のゾーン

旧市街地と新市街地

旧八王子街道や旧藤沢街道、目久尻川沿いの旧市街地と、その他の主に昭和  
30年代以降に開発の進んだ新市街地。

### 3. 工場など

昭和30年代～50年代に構成された市の東部に存在する工場地域。

また、これに

#### 水辺のライン

相模川、鳩川・(相模川)左岸用水、目久尻川・芹沢川など、本市の成立ちや、  
人々の生活に影響を及ぼしてきた河川。

#### 湧水のポイント

本市の景観の特徴の一つである相模川河岸段丘直下番神水をはじめとする湧  
水群、目久尻川左岸のいっぺい窪湧水など

などが特色として絡み合い、本市を形成しているといえる。

さらには、国道246号線バイパスや入谷バイパスなどの新しい幹線や、鎌  
倉街道・府中街道・藤沢街道・大山街道などの旧道が市内を巡っており、これら  
も重要なポイントとなっていくものと思われる。

## 資料編

現在、考古学資料、市内に所在する指定文化財及び旧歴史民俗資料館から引き継いだ資料の点数、市史編さん室などで把握している古文書資料などを記載している。いずれも、博物館施設での活用に供することが可能なものである。

### 1. 考古学資料

発掘件数は昭和 57 年以降で 35 件あり、その発掘資料については、教育委員会で所蔵している資料は幅 40cm×長さ 65cm、深さ 25cm のテン箱に約 240 箱、県立埋蔵文化財センター外に所蔵されている資料は約 500 箱に達する。

### 2. 指定文化財一覧 (全 32 件)

種別	区分	名称	指定年月日	所在地、由緒等
国 重 文	銅 鐘 1	嘉禄三年紀梵鐘 (一口)	昭和 42. 6. 15	入谷 3-3583 星谷寺 鎌倉時代 (嘉禄 3 年(1227) 紀銘入りの古 鐘、関東以北では 2 番目に古い
有 形 文 化 財	古 文 書 10	星谷寺文書 (四通) 秀吉制札 (包紙付) 北条氏寄進状 (奉書) 北条氏制札 (奉書) 北条氏制札 (奉書) 鈴木家鍛冶文書 (四通) 道俊書状 (包紙付) 周廣名字状 北条氏書状 北条氏書状 大矢家文書 (一括) 飯島家文書 (一括)	昭和 40. 5. 10     昭和 41. 5. 17    平成 16. 10. 8 平成 16. 10. 8	入谷 3-3583 星谷寺蔵 天正 18 年 (1590) の文書 天正 10 年 (1582) の文書 永禄 8 年 (1565) の文書 天正 3 年 (1575) の文書 座間 1-3104 鈴木貞一氏蔵 天文 16 年 (1547) の文書 天文 14 年 (1545) の文書 永禄 5 年 (1562) の文書 永禄 8 年 (1565) の文書 江戸時～明治時代 江戸時代～明治時代
		建 造 物 5	岩城常隆供養五輪塔 (一 基)  石造大日如来座像 (一基)  六字名号碑 (一基)  神変大菩薩碑 (一基)  宝篋印塔 (一基)	昭和 42. 5. 11  昭和 43. 3. 27  昭和 44. 6. 24  昭和 49. 1. 17  昭和 53. 12. 23

有形文化財	美術工芸 4	相州住綱廣銘脇差（一振）  蜻蛉燈籠（石造、一基）  鐙（佐々木掛け、一双）  相州住周廣銘脇差（一振）	昭和 42. 5. 11  昭和 44. 6. 24  昭和 44. 6. 24  平成 16. 10. 8	座間 1 丁目 鈴木貞一氏蔵 相州住綱廣銘脇差 平造り 室町 末期の作  座間 1-3300 宗仲寺 献燈形 推定江戸初期建立  入谷 1-3221 円教寺 総鉄製 佐々木掛け 座間 1 丁目 鈴木貞一氏蔵 相州住周廣銘脇差 平造り 戦国 時代の作
	彫刻 1	釈迦如来立像（木彫、一体）	昭和 46. 3. 30	入谷 1-1552 心岩寺
	書跡 1	写経（紺紙金泥卷子仕立一 巻）	昭和 43. 3. 27	入谷 1-3221 円教寺制作年代 1200 年代
天然記念物	天然記念物 5	咲き分け散り椿（一株） 大樫（けやき）（一株）  桑（普通十文字種、一株）  ニッケイ（一株）  シラカシ（一株）	昭和 40. 5. 10 昭和 42. 5. 11  昭和 44. 6. 24  昭和 49. 1. 17  昭和 53. 12. 23	入谷 3-3583 星谷寺 入谷 3-3366 護王姫社境内（星野 正孝氏外同族 6 人）二本の樫が相生 して一樹となる。樹齢推定 300 年 座間 1 丁目 片野寿美子氏宅 樹齢推定 150 年 西栗原 1 丁目 鈴木正夫氏宅 樹齢推定 110 年 栗原中央 4-4-14 栗原神社境内 樹齢推定 500 年
史跡	史跡 3	鈴鹿横穴群第一号  梨ノ木坂横穴群第一号・第 二号  鈴鹿遺跡（住居址及び遺跡 包蔵地）	昭和 42. 3. 27  昭和 49. 1. 17  昭和 57. 1. 25	入谷 1 丁目 沢田政彦氏宅 推定 1200~1300 年前 入谷 5-1578、1579-3 推定 1200~1300 年 羨門部石積等に特徴あり 入谷 1-3500 鈴鹿明神境内 縄文時代後期（約 3500 年前）の 平地式住居址等
無形文化財	無形民俗文化財 2	祭囃子 「かまくら」、「やたい」 二曲  座間歌舞伎	昭和 43. 3. 27  昭和 46. 3. 30	若音会 （代表：南栗原 3 丁目 中村寿 夫氏）  入谷歌舞伎会 （代表：入谷 1 丁目 吉川正昭 氏）

### 3. 民俗資料収蔵内訳

分類	番号	点数
衣・食・住	100	0
衣	101	144
食	102	220
住	103	143
生産・生業	200	0
農 耕	201	306
山 樵	202	15
魚 撈	203	19
養 蚕	205	68
畜 産	206	9
染・織	207	95
諸職	209	54
交通・運搬	300	55
交易	400	56
社会生活	500	26
信仰	600	22
民俗知識	700	0
教育、医療、時計用具等	701	37
その他	702	10
民俗芸能、娯楽等	800	120
人の一生	900	13
年中行事	1,000	2
計		1,414

### 4. 動植物調査

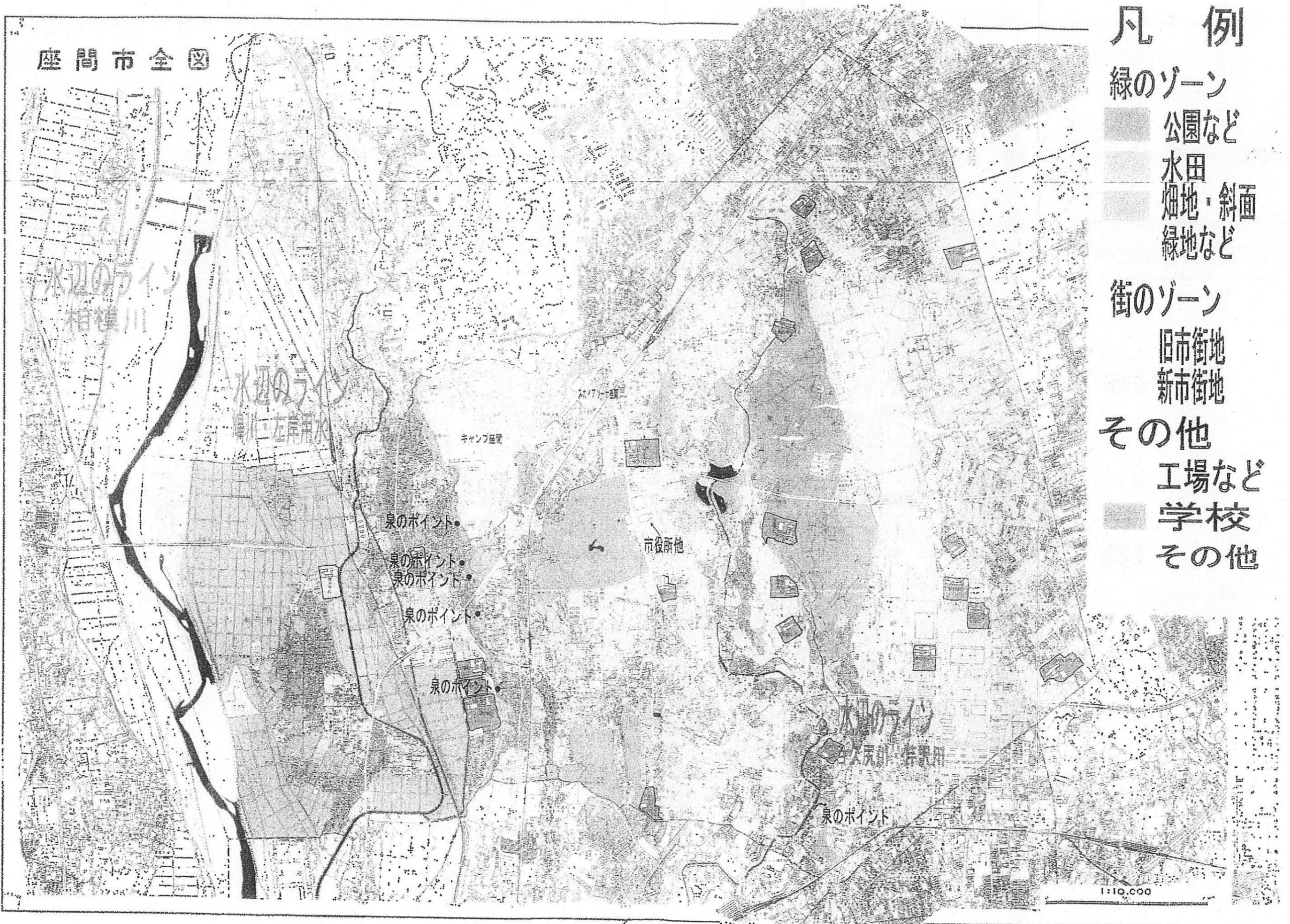
植物調査は、昭和54年～同57年にかけて行われシダ植物 61、裸子植物 9、被子植物 790（単子葉植物 222、双子葉植物 568）の860種類の植物を確認し「座間市の植物」報告書が昭和58年に刊行されている。また、動物調査については平成元年～同2年に調査が行われ、脊椎動物 205種（哺乳類 10、鳥類 159、爬虫類 12、両生類 7、魚類 17）、無脊椎動物 1,553（チョウ類 50、ガ類 292、甲虫類 864、半翅類 161、トンボ類 26、クモ類 160）を確認し平成4年に「座

間市の動物調査」報告書が刊行されている。

#### 5. 古文書資料等

市史編さん室では、市内の近世から近代の文書（もんじょ）資料について目録を作成しその点数については、約60,000点余りとなる。

座間市全図



凡 例

緑のゾーン

- 公園など
- 水田
- 畑地・斜面
- 緑地など

街のゾーン

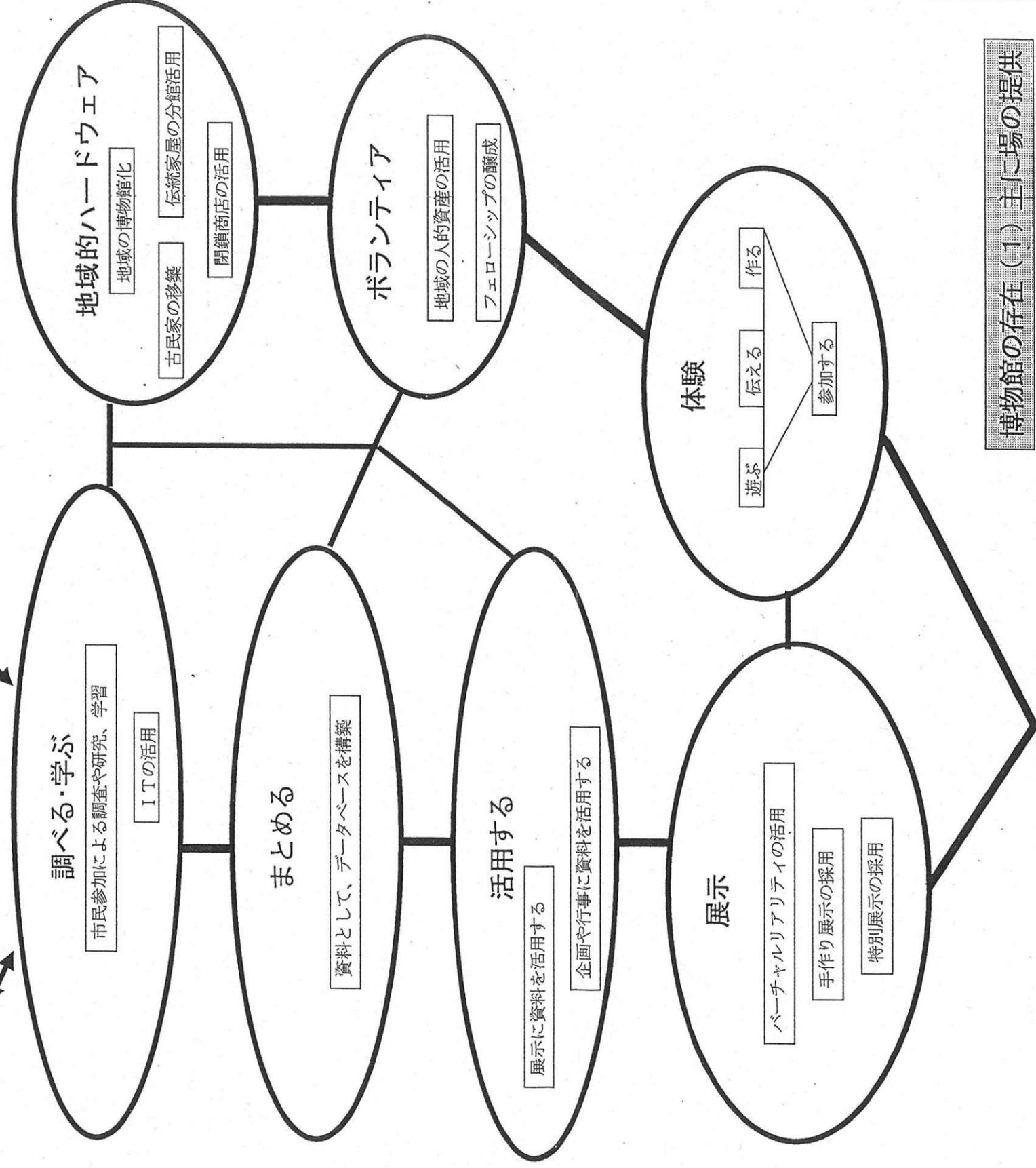
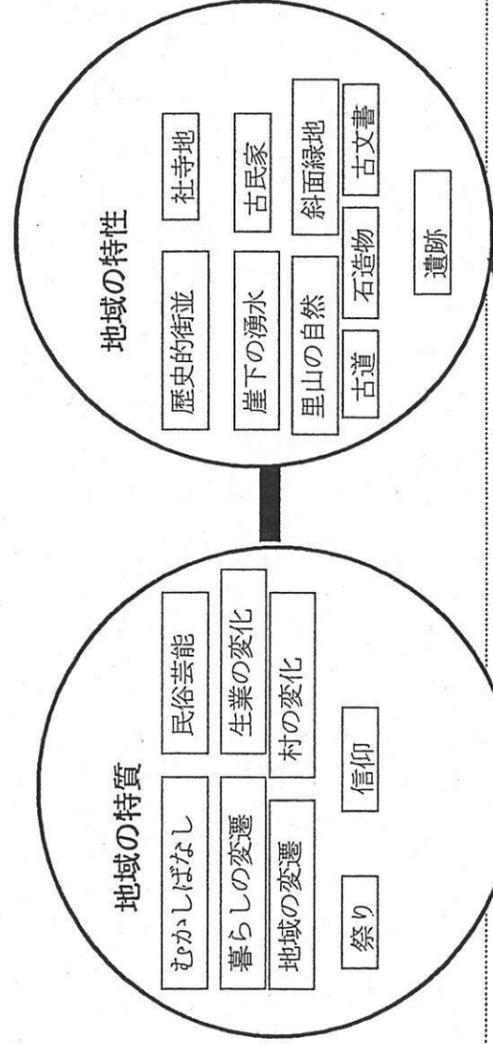
- 旧市街地
- 新市街地

その他

- 工場など
- 学校
- その他

1:10,000

# 地域的な資産



博物館の存在 (1) 主に場の提供

博物館の存在 (2) 主に基礎機能

